様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１２４０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２００３７

研究課題名（和文）徐霞客遊記の総合的研究

研究課題名（英文）General studies of The Travel Diaries of Xu Xiake

研究代表者
薄井　俊二（USUI, Shunji）

埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：９０１８５００９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、中国明代に記された「徐霞客遊記」について、基礎的な研究を施すこと、地理思想史上の特徴と文学史上の特徴を明らかにすることを目的としている。
　資料蒐集としては、徐霞客に係わる研究書100点以上を蒐集した。本文研究としては、「嵩山遊記」「浙遊日記」と「江右遊日記」の前半を翻訳した。伝記研究としては、陳函輝「霞客徐先生墓志銘」を翻訳した。徐霞客の伝記資料の日本語化は、初めてのことである。地理思想史上の研究としては、「山岳・洞窟の現状と形成」について、研究の準備が整いつつある。文学史上の研究としては、山川遊記の資料蒐集を行い、整理中である。

研究成果の概要（英文）：This study is intended that I clarify putting an underlying study, the characteristic of the geography thought history and the characteristic in the history of literature about "徐霞客遊記" written in Ming era.
As document collection, I performed collection of monograph one hundred or more which affected 徐霞客.As text studies, I translated "遊嵩山日記","浙遊日記", the first half of "江右遊日記" .As a biography study, I translated 陳函輝 "霞客徐先生墓志銘".Japanization of the biography document of 徐霞客 is the first thing.In the history of geography thought study, I am ready for the study about "the present conditions and the formation of the mountains, the cave".As a study in the histories of literature, I perform the document collection of "山川遊記", and am arranging it.

研究分野：中国思想史

キーワード：中国哲学・思想　中国地理思想史　徐霞客遊記　徐弘祖

１．研究開始当初の背景

明代の徐宏祖（1586～1641）に「徐霞客遊記」と呼ばれる十巻に及ぶ長大な旅行記がある。一部は散逸したが、10 回分の旅行記録 60 万字余が伝存し、当時の社会や自然の様子を伝える貴重な資料となっている。巻一には 9 回分の記録が収まり「名山遊記」とも称される。巻二から巻十には、浙江省から雲南省までの四年間に及ぶ大旅行の記録が収められ「西南遊記」とも称される。

徐霞客の交通手段は徒歩と舟行であったが、山岳や洞窟・河川と湖沼などの自然地理的な事柄や、交通網や地方の住居、人々の居住の様などの人文地理的な事柄を、実に詳細に観察して記録している点で際だったものがある。中でもカルスト地形について観察記録したものとしては、世界で最初のものである。

従来の旅行記が、名所旧跡を訪れ、先人の詩文を踏まえつつ作られる遊覧的性格が濃厚であったのに対し、この遊記は、客観的な立場からの観察者の視点で書き貫かれている。こうした科学的な視点に基づく、合理主義・実証主義的な視点は、実は明代後期の思想界に広く見られるものでもあった（注１）。この点で、徐霞客遊記は、地理学・地理思想史研究のみならず、文学史研究や、中国における科学思想の展開においても重要な示唆を与えてくれるものと言える。

徐霞客遊記は、近年本国の中国では注目され、多くの研究書や論文が書かれ、専門の研究会も開かれている（注２）。一般や児童に向けた書籍も出版されている。しかし、日本では、ごく一部の研究者によって、サブ的な資料として取り上げられることはあっても（注３）、本格的に取り組んだ研究はなかった。それはこの資料が膨大な分量があり、テーマごとにまとめられることなく雑多な記述となっていることなどから通読されることが少なく、その価値について認識されにくかったことが原因であろう。中国地理学研究の手薄さや方法論の貧弱さもそれを助長してきた。

そこで本研究で、日本で初めて「徐霞客遊記」を本格的に研究対象として取り上げ、書誌学的課題の検討や遊記本文の訳注づくりといった基礎的な研究と、地理学・地理思想史の立場と文学史の立場からの、遊記の本文内容に基づく展開的な研究の両方を平行して進めることとする。

（注１）経学における古学の他、李時珍の『本草綱目』、徐光啓の『崇禎暦書』『農政全書』、宋応星の『天工開物』など、自然科学的な学問が展開した。

（注２）1997 年発足の徐霞客研究会刊行の専門誌は、現在 20 号を数える。ただ、研究書や論文が数多く刊行されてはいるが、研究方法が確立していないこともあって、遊記全体を概論したに過ぎないものが少なくない。

（注３）渡部武「中国明代の旅行家徐霞客の旅と飲食」『食の文化フォーラム 20　旅と食』ドメス出版、2002 年、等。

２．研究の目的

本研究は、中国明代に記された「徐霞客遊記」について、文献学的検討や訳注づくりなどの基礎的な研究を施し、その上でこの資料の持つ、地理学・地理思想史的な性格・特徴と、文学史的な性格・特徴を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

研究体制としては、「徐霞客遊記」の書誌学的課題や本文に関する基礎的な研究を行う「基礎研究部門」と、地理学的な課題を扱う「地理学・地理思想史部門」、文学史的な課題を扱う「文学史部門」の、三部門を立て、五名の研究者が分担して研究に当たる。

初めの二年間は、各部門の課題をそれぞれ研究する。三年目には、それまでの研究成果をまとめ、公刊の準備を行う。

４．研究成果

今回の研究では、基礎的な研究が中心となり、地理学・地理思想史的研究と文学史的研究は、公刊するまでの進展を得られていない。そこで、基礎的な研究については、発表論文などを中心とした研究成果をまとめ、地理学・地理思想史的研究と文学史的研究についてはこの期間で明らかになったテーマや課題などを報告する。

（１）基礎的な研究

徐霞客に係わる研究論文等については、英文の“ Xu Xiake—The Art of Travel Writing ”をはじめとして、100 点以上の中文のものを蒐集した。欽定四庫全書版線装本など高価なもの数点は未購入だが、徐霞客関連書籍の蒐集としては、本国中国でも類を見ないものとなった（埼大図書館 OPAC 参照）。これらについては解題をウェブ上で公開していく準備を進めている。

本文研究としては、名山遊記から嵩山遊記を、西南遊記から浙遊日記と江西遊日記の前半を口語訳として訳出し、公刊した（雑誌論文⑨⑩⑯⑰、遊天台山日記は、2011 年度公刊済み）。これらは順次、詳注を付してウェブ上に公開する準備を進めている。これらと関連して、薄井は、福建省の武夷山・江西省の龍虎山と武功山へ（2012 年度）、湖北省の武当山･広西壮族自治区の桂林へ（2013 年度）、湖南省の九嶷山へ（2014 年度）、それぞれ出張し、徐霞客が観察した山岳や地質・地貌を実地調査するとともに貴重な資料を蒐集した。また大橋は、フランス国立図書館へ出張し（2012 年度）、西欧における徐霞客を含む中国伝統文化の現状を調査した。

遊記の全体像を把握するために、徐霞客の全行程を跡づける作業を行い、名山遊記・浙遊日記・江西遊日記・楚遊日記部分について実施し、公刊した（雑誌論文①⑤）。

伝記的研究としては、陳函輝の手になる「霞客徐先生墓志銘」を公刊した（雑誌論文④）。徐霞客の基礎的な伝記資料の日本語化は、初めてのことである。

（２）地理学・地理思想史的研究と文学史的研究

地理学地理思想部門では、「山岳・洞窟の現状と形成」について、研究の準備が整いつつある。浙遊日記において、徐霞客は山脈と洞窟の形成を、気脈の流れとして考察していた。また浙江省で観察した六つの洞窟についてその優劣を論じていた。これらの考察・論説を分析することで、徐霞客の自然観・自然地理的思考が明らかになるものと予測される。これらについては、日本洞窟学会などの専門的な学会などで発表し、成果を公開する準備を整えている。

文学史部門では、六朝時代以来の遊覧的な山川遊記の資料蒐集を行い、電子化された「山川志」資料を入手、整理中である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２５件）

①薄井俊二、「徐霞客遊記の基礎的研究（二）―徐霞客遊記全行程（その２）」『埼玉大学紀要（教育学部）』査読なし、64 巻 1 号、133-144 頁、2015 年

②飯泉健司、「風土記の地名・音・文字―説話生成のメカニズム」『古代文学会』査読あり、54 号、11-18 頁、2015 年

③田村均、「史料紹介　蕨市新指定文化財『機織図絵馬』について」『蕨市立歴史民俗資料館研究紀要』査読なし、12 号、81-87 頁、2015 年

④薄井俊二、「徐霞客遊記訳注稿　資料篇（一）―陳函輝『霞客徐先生墓志銘』」『埼玉大学紀要（教育学部）』査読なし、63 巻 2 号、137-152 頁、2014 年

⑤薄井俊二、「徐霞客遊記の基礎的研究（一）」［第一部 読徐霞客遊記札記（一）、第二部 徐霞客遊記全行程（一）」『埼玉大学紀要（教育学部）』査読なし、63 巻 2 号、153-180 頁、2014 年

⑥薄井俊二、「『国立大学教員養成系学部における漢文教育に関する予備的な調査』について」『中国文化』査読あり、72 号、28-39 頁、2014 年

⑦飯泉健司、「仁徳朝とイハノヒメ物語―人の世の知恵と情」『國學院雑誌』査読あり、115 巻 10 号、272-284 頁、2014 年

⑧飯泉健司、「イワ大神―播磨国風土記の神と社」『悠久』査読なし、134 号、51-62 頁、2014 年

⑨薄井俊二、「徐霞客遊記訳注稿　西南遊記篇（三）―『江右遊日記』（其一）」『埼玉大学紀要（教育学部）』査読なし、62 巻 2 号、125-146 頁、2013 年

⑩薄井俊二、「徐霞客遊記訳注稿　西南遊記篇（二）―『浙遊日記』（後半）」『埼玉大学紀要（教育学部）』査読なし、62 巻 1 号、147-157 頁、2013 年

⑪薄井俊二・深堀清隆、「日向十景碑について―近世さいたま市の景観史料―」『埼玉大学紀要（教育学部）』査読なし、62 巻 2 号、147-168 頁、2013 年

⑫飯泉健司、「大山を削る ―平城京の天皇・僧と民の文学」『日本文学』査読あり、62 巻 5 号、20-28 頁、2013 年

⑬飯泉健司、「オオクニヌシ―全国の神々を傘下に収め、頂点に立つ国つ神」『歴史読本』査読なし、59 巻 2 号、66-71 頁、2013 年

⑭小林聡、「五胡・北朝期における服飾の『多文化性』―河西・朝陽の両地区を中心に―」『川勝守・賢亮博士古稀記念東方学論集』汲古書院、査読なし、267-296 頁、2013 年

⑮田村均、「農村工業化とファッション」中西聡編著『日本経済の歴史－列島経済史入門』名古屋大学出版会、査読なし、150-151 頁、2013 年

⑯薄井俊二、「徐霞客遊記訳注稿　西南遊記篇（一）―『浙遊日記』（前半）」『埼玉大学紀要（教育学部）』査読なし、61 巻 2 号、99-112 頁、2012 年

⑰薄井俊二、「徐霞客遊記訳注稿　名山遊記篇（二）―『遊嵩山日記』」『埼玉大学国語教育論叢』査読あり、15 号、30-42 頁、2012 年

⑱飯泉健司、「型―防御力と破壊力、そして新たな世界へ」『古代文学』査読あり、51 号、67-73 頁、2012 年

⑲小林聡、「在中国古代礼制、服制史上河西出土文物的特点　―以礼制構造的概況和在河西地区的服制伝播為中心―」『高台魏晋墓与河西歴史文化研究』査読なし、349-358 頁、2012 年

⑳大橋修一、「後漢末期における書の諸相―西高穴二号墓を中心として」『書学書道史研究』査読あり、23 号、1-8 頁、2012 年

〔学会発表〕（計１件）

①小林聡、「魏晋南北朝時代における礼制研究のあり方―儀礼・輿服と官爵体系を題材として―」、魏晋南北朝史研究会、2013 年 9 月 14 日、日本女子大学（東京都文京区）

〔図書〕（計４件）

①大橋修一、研文出版、『近出殷周金文考釈』第四集、174 頁、2015 年

②大橋修一、研文出版、『近出殷周金文考釈』第三集、127 頁、2014 年

③大橋修一、研文出版、『近出殷周金文考釈』第二集、163 頁、2013 年

④大橋修一、光村図書、『書の古典と理論』、175 頁、2013 年

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
◯ホームページ等
http://park.saitama-u.ac.jp/~kanbunken/index.php?id=69

６．研究組織

(1)研究代表者
薄井　俊二（USUI，Shunji）
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：90185009

(2)研究分担者
飯泉　健司（IIZUMI，Kenji）
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：70277747

大橋　修一（OHASHI，Shuichi）
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：70302502

小林　聡（KOBAYASHI，Satoshi）
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：40234819

田村　均（TAMURA，Hitoshi）
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：40201628